

上田市の認定中心市街地活性化基本計画について

長野県上田市商工観光部商工課課長補佐兼市街地商業活性化担当係長 竜野 秀一

1. 上田市の概要

上田市は、長野県の東部に位置し、面積は552km²。市の中央を千曲川（新潟に入ると「信濃川」）が流れ、北は上信越高原国立公園の菅平高原、南は八ヶ岳中信高原国立公園に指定されている美ヶ原高原などの2,000m級の山々に囲まれています。昼夜、夏冬の寒暖の差が大きい典型的な内陸性の気候で、晴天率が高く、年間の降水量が800mmから900mmと全国でも有数の少雨乾燥地帯となっており、この気象条件を活かして農業ではため池を活用した水稻のほか、果樹及び花き栽培が盛んです。



上田城跡公園



北国街道 柳町

戦国時代の天正11年（1583年）、真田昌幸によって上田城が築かれてから城下町として発達が始まり、政治・文化の中心、物資の集散地として長く栄えました。

特に、徳川軍の侵攻を二度にわたって退け、さらに、その後の大阪冬・夏の陣での幸村をはじめとする真田一族の活躍は、池波正太郎氏によって『真田

太平記』に描かれ、市内では上田城等が物語の舞台として登場しています。

また、明治から大正時代にかけては、全国有数の蚕種（さんしゅ）の生産地であり、全国の蚕糸業を支える「蚕都」として隆盛を極めました。その名残りとしての近代化産業遺産の指定を受けた建物などが中心市街地内にも残されています。

2. 中心市街地の概況

北国街道沿いに発達した古い歴史を持つ原町、海野町のほか、鉄道の開通によって新たに発達した松尾町、天神の商店街があり、その商圏はかつて「北上州から諏訪、伊那地方にも及んだ」とされ、現在も東信州地域の中核的な商都として、商業も盛んです。

しかし、大型店舗がしだいに中心商店街以外の場所に立地するようになり、中心商店街の歩行者通行量は減少傾向が続き、また、年間商品販売額も低下しています。

3. 中心市街地活性化への取組

このような状況の中、本市では、平成11年度に「旧中心市街地活性化基本計画」を策定し、「歴史が暮らしをつつむ、ときめきの街をめざして」をキャッチフレーズに、駅周辺の再開発事業や、都市計画道路や一般市道の整備等計56の事業を計画し活性化に取組み、上田市の顔となる都市基盤の整備を進め。一定の成果は見られましたが、中心市街地の空洞化に歯止めをかけることはできませんでした。

その後、「まちづくり三法」の改正に合わせ、平成18年9月、専門家、学識経験者、事業者等で構成された「上田市中心市街地活性化基本計画策定委員会」を設置し新たな基本計画づくりに取組んできたところです。

4. 基本理念と基本方針

現在の上田市の中心市街地の基礎となったのは真田氏による上田城築城であり、その城下町を基礎として以後400年以上を数える長い間、発展してきたことは市民の理解が共通しているところです。そこで、上田市の中心市街地の活性化のテーマを「400年の歴史を超えた城下町ルネッサンス」として、真田昌幸以後の城主や明治以後の先達がまちづくりに賭けた熱意を超えて、地域が一体となって中心市街地の活性化に取り組むことにしました。

具体的な事業についてはテーマをさらに区分して「城下町としての賑わいの再興」、「歴史的・文化的資産の活用」、「城下町としての意識の高揚」の視点を取り入れて展開を図ることになりました。

5. 中心市街地活性化の将来像（イメージ）

中心市街地の将来像を、多様な人々が安心・安全に暮らすとともに、「東信州の観光拠点都市」上田の玄関口として、様々な連携を育み、賑わいを形成する快適都市

①住む人が豊かで快適な時間を過ごせる生活快適都市
②訪れる人が豊かで快適な時間を過ごせる交流快適都市としました。



六つの拠点エリア

6. 数値目標

目標1 居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める。（生活快適都市）

指標「中心市街地の居住人口」

6,897人（平成20年）→7,059人（平成26年）

目標2 市民、事業者等が連携した活動により地域

活力の向上を図る。（域内交流）

指標「中心市街地の歩行者通行量」（平日）

22,404人/日（平成20年）→24,257人/日（平成26年）

参考数値目標：新生「上田市」の総合的なブランド力を高める（域外交流）

指標「中心市街地にある上田城跡公園周辺施設（上田城南櫓、上田市立博物館、池波正太郎真田太平記館及び観光会館）年間利用者数」

174,754人/年（平成20年度）→180,000人/年（平成26年度）

7. 中心市街地活性化のための主な事業

①交流・文化施設整備事業

市民交流スペースや大小のホール、市民ギャラリー、常設展示場。新生「上田市」の一体感を醸成し、更なる発展の象徴として位置付ける施設であり、地域や世代を超えた新たな交流と活力を生み出すとともに、伝統文化の継承と新たな市民文化の創造に取り組むことで、都市の魅力を高めていく事業です。

②交流サロン整備事業

「池波正太郎真田太平記館」の交流スペースを、商店街通りに面した利用しやすい場所に移設し、同館に「交流サロン」としての機能を整備し総合的なブランド力を高める事業です。

③総合保健センター整備事業

街なかに、少子高齢化社会に対応した新たな基幹保健センター、併せて子育て支援機能を集約した子育て支援センター、発達相談センターの機能も持つ施設を整備し居住満足度を高める事業です。

8. おわりに

平成18年3月に、1市2町1村の合併により誕生した新上田市は、温泉、高原、史跡など多彩な地域資源を持ち、それらの連携によって地域のブランド力を高め、広域から呼び込んだ人を中心市街地の活性化に結びつけていくことが求められています。

そのために、今後この基本計画に基づき、商店街の主体的取組を大切に地域が一体となって活力の向上に取り組んでまいります。

（たつの しゅういち）